



2014年9月29日

報道関係者各位

慶應義塾大学

**SFCのキャンパス開設25周年を記念して
総合政策学部、環境情報学部、大学院政策・メディア研究科で
2015年度から「学部・大学院修士4年一貫教育プログラム」を開始**

慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス（SFC）は、2015（平成27）年に開設25周年を迎えます。

この記念事業の一つとして、総合政策学部と環境情報学部および大学院政策・メディア研究科は、現行の制度はすべて維持しつつ、学生利益の観点とプロフェッショナル人材育成強化の観点から、学部・大学院修士の教育を一体として考える「学部・大学院修士4年一貫教育プログラム」を2015（平成27）年度より開始します。このプログラムによって、学部を4年間で卒業する場合とほぼ同じ費用・期間で学士および修士の2つの学位を取得できる道が開かれます。

【背景】

湘南藤沢キャンパスでは学部と大学院修士を5年間で修了できる仕組みを推進してきました。具体的には、学部3.5年早期修了制度もしくは飛び入学制度と大学院の早期修了制度を組み合わせることで、5年間で学部・大学院修了が可能な仕組みを用意しています。学部で3.5年、修士で1.5年など単独での早期卒業は既の実績があり、それぞれ経験が蓄積されてきたところです。その中で、学部3年終了時に、卒業に必要な単位のほとんどを取得済みの熱心な学生が毎年10名前後いることが判明しました。そこでSFCでは、修士課程との組み合わせを前提に、学習のカリキュラムをオーバーラップさせる工夫により、4年間で学士と修士の学位を取得できるプログラムを創設しました。

【4年一貫プログラムのメリット】

- ・学部の標準修業年限同等年数（通常4年間）で学士および修士の2つの学位を取得できます。従来の4年+2年という修士学位取得までの期間を、その長さから躊躇していた学生に対して、学部・大学院を一貫して指導する教員のもと、集中的な学習を積ませます。これにより、意欲ある学生の将来の選択肢の幅が大きく広がります。
- ・授業料等、納入を要する金額の総額を抑えることができるため、このプログラムを修了するのに必要な金額は学部4年間で納入する金額と大差ありません。経済的理由により大学院修士課程への進学に困難を抱えていた学生にも進学の道を広げます。
- ・現行の制度はすべてそのままに、新たにこのプログラムがスタートするため、優秀な学生の研究活動が多様化します。

【目的】

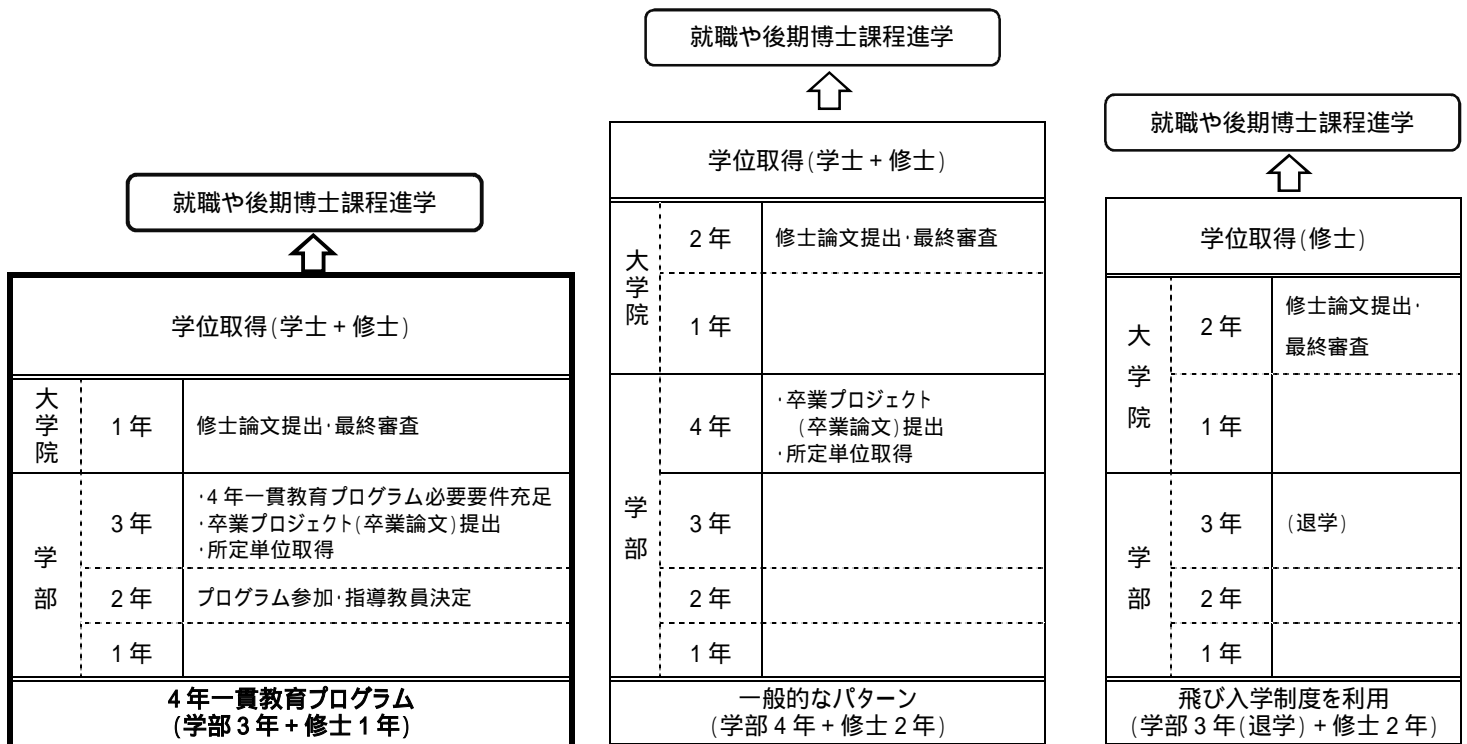
全国的な大学院進学者の減少傾向が続いていますが、大学院進学を躊躇する要因として挙げられる学修期間の長さや費用面での問題を、この4年一貫教育プログラムで打ち消すことにより、元々意欲があり修士学位取得を見込める潜在的な学生層を発掘します。大学院組織の活性化を図るとともに、高度な知識・技能をもった多様な人材を湘南藤沢キャンパスから社会により多く送り出していきたいと考えています。

【4年間で学士および修士の2つの学位を取得するための基本設計】

学部1年終了時に、4年一貫プログラムへの参加の意思のある学生に担当教員がつき、修士論文執筆までを指導します。この教員の指導のもと、学部の卒業要件の一つである卒業プロジェクト(卒業論文)を、修士論文執筆を見据えて作成します。また、学部卒業が単なる通過点とならないよう、GPA基準を用いた3年次の早期卒業要件を別途設け、通常の学部卒業要件も課すことにより、学部3年卒業の質を担保します。学部卒業後は、そのまま修士課程に進みます。学部在学時には大学院設置科目を最大で12単位まで先取りすることができ、大学院の単位として認定されます。修士課程進学後は、修士論文の作成を行い、1年間で修士学位を取得します。

なお、従来から設けていた飛び入学制度を利用した場合、全体としての期間は5年間に短縮されますが、学士を取得できないことから、大学院を修了できない場合のリスクが伴いました。今回の制度では、あくまで学士と修士の2つの学位取得を目的としているため、その心配はありません。

また、別途このプログラムに参加する学生の募集を意図した入学試験の実施は行いません。既存の入学試験を経て入学した学生全員にプログラム参加の道を等しく開きます。



【導入時期】

2015年4月入学者から(2019年3月に第1期生が大学院修士課程修了)

ご取材の際には、事前に下記までご一報くださいますようお願い申し上げます。

本リリースは文部科学記者会、各社社会部、教育部、湘南支局、TV各局等に送信しております。

発表内容に関するお問い合わせ先

慶應義塾広報室(山崎)

TEL: 03-5427-1541 FAX: 03-5441-7640

Email: m-koho@adst.keio.ac.jp http://www.keio.ac.jp